いはゆる中原で、春秋戰國時代の古蹟がいたるところにあり、政權爭奪の覇者の夢燻るうるはしき古典の野である。

きて河北省各地の記述に入る前に、今事變の發端となり、しかも爾後激戰の繰返された、津浦・北寧・京漢・三線（京綏線は蒙疆地區の項參照）の戰略的大觀を述べて、まづ皇軍將兵の奮戰と勞苦に敬意と感謝を捧げよう。（尙戰鬪の經過は、その土地々々に就て順次申し述べることゝする）

北寧・京漢兩線の戰略大觀

今次事變の發火點となつた盧溝橋は北京より天津、山海關を越えて遠く來天に至る北寧線と、大陸を縱斷する大動脈、即ち北京を發して南に延び保定、石家莊、順德、彰德、新鄉を經て大黃河を渡り漢口に達する京漢鐵道の分岐點豐台より約三キロ兩鐵路に挾まれた三角地帶であつたゝめ、事件の擴大は必然的にこの二大鐵路を中心に發展すべく運命づけられてゐた。

硝煙全支を蔽ふに到つた、この大事變の導火線は實にこの地點に起きた抗日支那兵の數十發の不法射擊であつたのである。後世の史家は昭和十二年七月十一日夜を以つて東亞の歷史は一新紀元を畫したとするであらう。事實は正にその通りである。

しかし盧溝橋に事件發生後といへども、もし國民政府にして蔣介側要人にしていち早く抗日の迷夢より醒めたならこうした大事變は起きずに濟んだのである。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

なぜなら我が國政府も、軍も、國民も朝野をあげて、東亞の和平をのぞみ堅く不擴大方針を持してゐたからである。

しかるに支那側は、我が國の實力を誤算、徒らに事態を惡化させ、遂に北寧線郎坊驛と北京廣安門附近に於て闇討ち的な攻擊を我が軍にあへてしたのであつた。

この時を限りに支那大陸に平和は去り、皇軍は遂に立つて正義の劍は進められたのである。

戰は先づ北寧沿線に起きた、郎坊の敵兵は一溜りもなく逃亡。二十九軍の金城湯地南苑は半日にして潰滅、宋哲元等冀察首腦部は闇にまぎれて北京を脱出、京漢線方面に逃れ去つた。

續いて天津も平定、太沽の敵兵も四散、忽ちにして北寧線一帶、京津の地は皇軍の占據する處となつた。

戰は次いで京漢沿線に移つた。

敵は保定を生陣地とし、涿州をその前進陣地とし、永定、拒馬、大册の諸河川に堅固な陣地を築き三十萬の大軍を集結、すきを見て京津地方奪回を策してゐた。

この形勢を察した我が軍は堂々の攻擊陣を布き九月中旬全線に亘つて攻擊前進、旬日にして涿州、保定を陷れた。

これが世に謂ふ保定、涿州會戰である。

皇軍は續いて進攻、敵の京漢線に於ける第二線、正定、石家莊を降し、餘勢をかつて順德を粉碎、河北、河南の省境彰河を越え、第三陣地、彰德の寸前でひとまづ兵をおさめた。

續いて昭和十二年暮迫る頃臨陣彰德を陷して、越年黄河北岸の敵掃蕩の作戰を練つた。

時、遂に到つて昭和十三年二月十一日、紀元の佳節に當つて、我が軍は分進合擊、絶妙なる作戰のもとに、隨所に戰果を收め、またゝく間に新鄭、

0706

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

長垣等の要地に日章旗を飜へし黄河北岸一帶の敵を掃蕩、京漢線黄河北段の作戦を終つたのである。

津浦線の戦略大觀

支那事變に當り、津浦沿線の戦は、これを端的に云へば、津浦鐵道並にこれと併行して南走してゐる大運河の沿線に展開された戦争といふことが出來る。津浦鐵道と大運河との關係であるが、津浦線は天津を起點として、河北平野を南下し揚子江岸浦口(南京對岸)に達する鐵道であり、大運河も同じく天津で白河より岐れ、更に直南して、山東省德州で稍々西方へそれて臨清に到り、再び東南に向ひ大黄河に合し、更に黄河より一路南下し台兒莊にて江蘇省に入り、これを縦貫して揚子江に注いでゐる。兩者とも南北支那を結ぶ二大交通路である。

たゞ大運河は黄河以北に於て、黄河船着場の陶城埠から臨清に到る間卅餘里は乾涸して耕地と變じてゐるが、他の部分は概ね舟楫の便がある。河幅は三〇—四〇米、水深は増水期(五月より九月)四米、減水期(十二月より一月)一米。三、四十石の船なら十分航行出來るのである。

鐵道と大運河とは天津より德州迄の間、仲よく併行してゐる。近い處はすぐ傍を、遠くとも一里とは離れてゐない。

津浦線北段の戦争(天津より徐州までを便宜上かく稱する)はかゝる地理的條件下に戦はれたのである。即ち如何なる戦争も後方兵站線を持たぬことはない筈である。鐵道、運河、道路、これいづれも兵站線に外ならない。

0707

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp